

ドローンで追肥を省力的に

～水稲の安定生産を目指してスマート農業技術を最大限に活用～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年8月13日発

基盤整備後の水田ほ場では、作土層が変化することにより、生育のバラツキが発生し、収量低下を招く場合があります。そこで、当事務所では7月30日に、省力的・効率的に追肥できる技術を紹介するため、衛星画像によるセンシングデータを基に、ほ場内で水稲の生育状況の違いに合わせて施肥量を調整できる可変追肥ドローンの実演会を勝浦市で開催したところ、農家や市町と農協など関係者32名の参加がありました。

メーカーからドローンの紹介があり、参加者は機械の性能や価格について質問をしていました。当地域では、基盤整備事業を複数地域で実施しています。ドローンでの追肥により、工事後の水田で早期に安定的かつ省力的に収量を確保できる可能性を共有できました。

今後は、収量コンバインによるほ場内の収量・品質のバラツキの確認や、衛星画像からのセンシングデータを解析するなどし、来年の栽培に生かしていきます。



追肥（葉面散布）の様子



ドローンの紹介の様子